



# ローコード開発ツールを導入するために確認しておくべき5つのポイント

本ホワイトペーパーでは、ローコード開発を採用することでのメリットとデメリットや、陥りやすい落とし穴、その回避方法について紹介していきます。



# 目次

---



ローコード開発ツールの普及の背景



ローコード開発ツールを導入するメリットとは



導入前のチェックポイント



5つのチェックポイントの解説



ローコード開発の活用事例



まとめ



サービス紹介

# はじめに

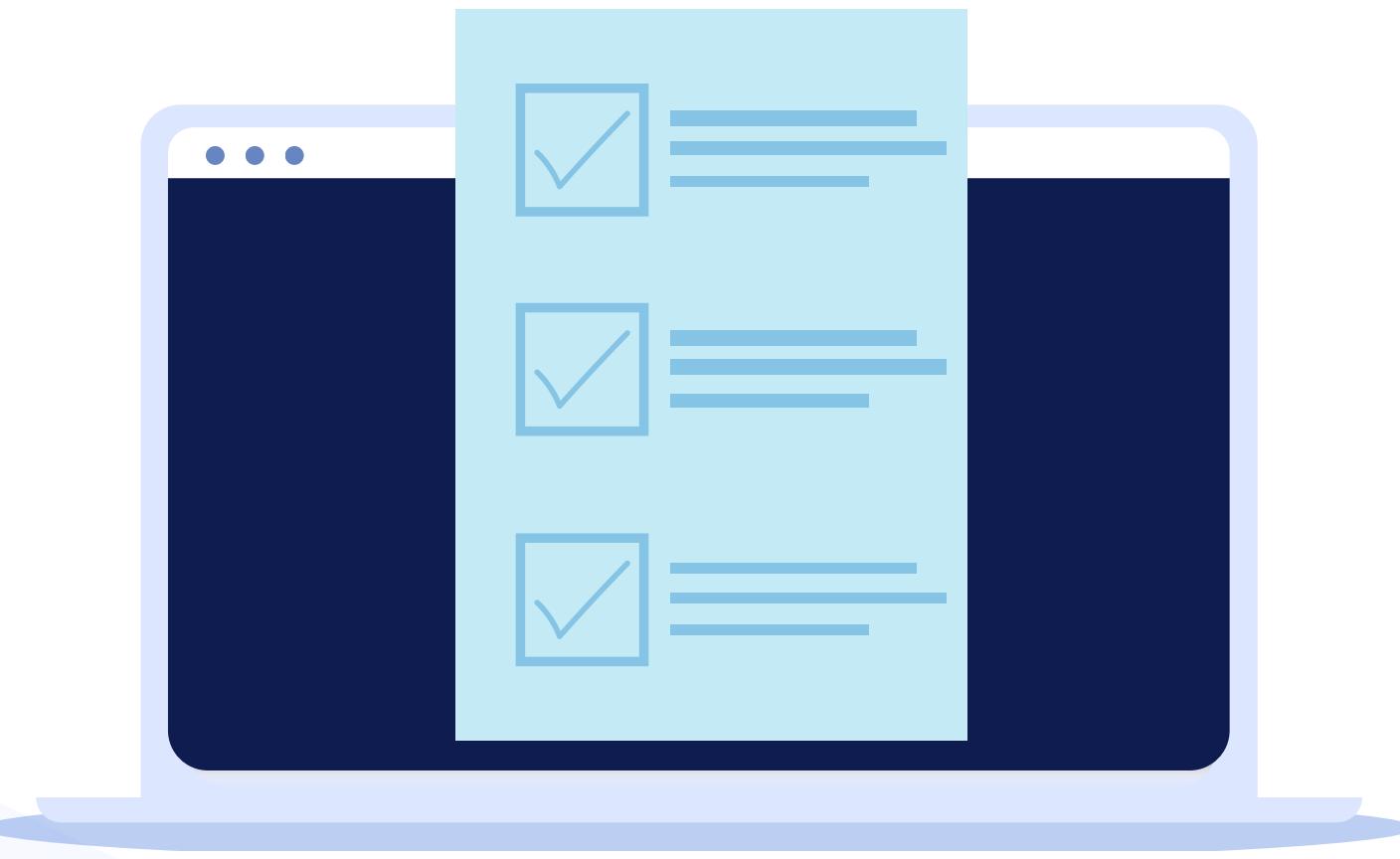
---

ローコード開発は、DXを推進する現代のビジネスでますます重要性を増しているシステムの一つです。

プログラミング経験の有無に関係なく、業務プロセスの自動化や新しいアプリケーションの迅速な構築を実現してくれます。しかし、ローコード開発ツールを導入する前に確認しておくべきチェック項目があります。

このホワイトペーパーでは、ローコード開発ツールが普及している背景と合わせて、導入するために確認が必要な5つのポイントについて解説します。

このホワイトペーパーで、ローコード開発をより理解しローコード開発の取り組みを成功へ繋げましょう。



# ローコード開発ツールの普及の背景

ローコード開発（Low-Code Development）とは、最小限の必要なソースコードのみを記述し、そのほかの多くの部分を「GUI（Graphical User Interface/グラフィカルユーザインターフェース）」とよばれる視覚的に理解しやすく直感的に操作できる画面を用いて開発する手法のことです。

現代の企業のIT化が進む中、このような開発ができるローコード開発はますます需要が高まりつつあります。その背景についてポイントをおさえて解説します。

## ①業務システムのIT化に対応できること



書類や印鑑が必要な承認プロセスが、業務効率化などの生産性向上のための施策に伴いITへの切り替えが求められています。

ローコード開発は様々な業務を効率化できる側面もあれば、急速なITの拡大に対応できるため需要が高まっています。

## ②エンジニア人材の不足に対応できること



急速なIT化に伴い、エンジニアの人手不足が問題になっています。

ローコード開発ツールは、ある程度プログラミング知識がある人であれば手軽にシステム開発が可能になるため、エンジニア不足にも対応することができます。

## ③短期間での開発・実装を実現できること



システム開発を一から行う場合、設計から細かな動作確認まで、多くの時間を要することがあります。本来行うべき実務も手つかずで、システム開発の優先順位が下がってしまう可能性があるでしょう。ローコード開発は事前にプログラムが仕組まれているため、開発に大きな時間をかけずに短期間で実装につなげることができます。

# ローコード開発ツールを導入するメリットとは？

ローコード開発は、官公庁から銀行や金融、医療、物流、ITなど、さまざまな業界・業種で活用されています。なかでもレガシーシステムを抱えている大企業では、DXを推し進めるべく、新しいプラットフォームに移行が行われています。考えられる課題イメージに沿ってみると、ローコード開発が活用できる場面でのメリットは以下のよう�습니다。



## メリット

### レガシーマイグレーション（古いシステムを新しいシステムに移行）における活用メリット

#### 既存システムとの接続

業務プロセスの依存性が非常に高い古いシステムであっても、ローコード開発ツールは機能が豊富なため既存システムとの接続が可能です。

#### コストの大削減

アプリケーションの開発もできるため、開発・運用のコストを大幅に削減できます。

### システムのサイロ化解消（部門や組織をまたいだシステム連携）における活用メリット

#### システムの基盤を統合

システムのサイロ化を解消する一番の方法は、システムの基盤を統合することです。ローコード開発ツールでは同じ基盤に複数のシステムを構築することも可能で、データの連携を考えることなく情報の連携が可能になります。

#### 業務の効率改善

一つの基盤にシステムを統合することで、各部門の連携や情報の共有が円滑になり、業務の大幅な改善が進められます。

### 人手不足・開発リソースにおける活用メリット

#### 開発時期の短縮

あらかじめ用意された機能単位を組み合わせてアプリケーションの大部分を開発できるため、開発期間を大幅に短縮できます。

#### 開発品質の向上

あらかじめテストを行って問題がないことが確認されている機能を活用しているためコードの記述ミスによるトラブルを減らすことができます。

# 導入前のチェックポイント

ローコード開発ツールをうまく活用して自社の課題を解決するためには、メリットだけでなく注意点も把握した上で適切に対処する必要があります。このページでは、ローコード開発ツールの導入に当たり、あらかじめ知っておきたい注意点をチェックポイントでお伝えします。



## 作りたいアプリケーションに適したローコード開発ツールを選定する

プラットフォームによって、アプリケーションの種類や施されている情報セキュリティ対策が異なる



## 開発できる内容の制限の確認

開発期間が短いメリットに対し、機能が限られていたり対応範囲が狭くツールによって自由度が異なる



## データベース設計の事前準備

設計がうまくできていないと、アプリケーション内にデータが紐づけされず、情報保管ができない可能性がある



## 緊急時に管理者側で対応する場合のルールや業務フローを決めておく

組織の管理者が認めていないアプリケーションが勝手に開発され、使われてしまうケースもある



## プログラミングのスキルがどれくらい必要なツールかを確認する

実現したい機能では意外とプログラミングが必要であったり、自分の知識やインターネット上から得た知識でプログラミングして、後から変更出来ない状況になる

# 5つのチェックポイントの解説

ローコード開発ツールを上手く活用するためには、メリットとデメリットを両方とも把握した上で、メリットを最大限に活かし、デメリットを最小限に抑えるための対策を講じる必要があります。ここで紹介した注意点は一般的な内容ですが、組織ごとに構築したいアプリケーションの特性は異なります。自社が求める機能や要件が満たせるのかどうか、プラットフォームを提供するベンダーに相談してみることも大切です。

さまざまなローコード開発ツールが提供されていますが、それぞれ、構築を想定したアプリケーションの種類や規模は異なります。スマホアプリの構築が得意なプラットフォームがあれば、大規模なアプリケーションの構築が得意なプラットフォームもあります。用意された機能単位も異なるため、あるプラットフォームでは実現できるアプリケーションでも、別のプラットフォームでは不可能なことがあります。

ローコード開発は、ノーコード開発に比べれば、コーディングによって機能拡張できる部分がある分、自由度が高い点がメリットです。ただ、1からプログラムを組むスクラッチ開発に比べれば、構築できる範囲には限りがあります。用意された機能単位を組み合わせて大部分を構築できる分、開発期間を短縮でき、開発コストを抑えられる点にあります。基本的には、構築したいアプリケーションに必要な機能が揃ったプラットフォームを選ぶことが前提となり、コーディングは補足的に利用することになります。

ローコード開発ツールを活用してアプリケーションを構築した後は、ユーザーが利用する中でアプリケーション内にデータが蓄積されていきます。アプリケーションの構築時に、正しくデータベース設計を行っておかないと、後からデータの利活用がしづらくなってしまいます。データモデリングの知識に基づき、どのような情報をどういった構造でデータベース化するのかを決めておかなければ、データの冗長性や不整合が起きる恐れがあります。その結果、どのデータが信頼できる正しい情報なのか判断がつかなくなったり、余計なデータが含まれていたりして、後から必要なデータを探して活用することが困難になることもあります。

ローコード開発ツールは、プログラミングのスキルを持たない現場の担当者の手でもアプリケーションを構築することができる点がメリットの一つですが、その裏返しで、管理者が把握していないアプリケーションが勝手に作られ、利用されてしまう恐れもあります。

もし、プログラミングのスキルがない現場の担当者が、インターネットで検索しながら自己流でコーディングを行った場合に、スパゲッティコードになってしまることがあります。スパゲッティコードとは、命令の実行順序が複雑だったり処理の流れや構造が把握しにくかったりするプログラムのことです。スパゲッティコードは、書いた本人にしか理解できないため、ほかの人が改修することは困難です。時には、書いた本人ですらわからなくなっているケースもあります。不具合が起きた場合は、どの部分が原因なのかを調査することから始めなくてはならないため、時間と労力がかかりてしまいます。

# ローコード開発プラットフォームを活用した事例



大日本除虫菊株式会社

ローコード開発プラットフォームとして「intra-mart®」が業務のハブとなり、紙業務のデジタル化を実現

## 導入のポイント

- ✓ 開発リソースが足りないという課題を解決
- ✓ 開発の構築時間の短縮に成功
- ✓ コミュニケーションツールなどシステム同士をつなぐことを可能に

## 導入前の課題

「約30年間稼働する汎用機では複雑なシステムの構築が困難になり、リソース不足と工数増の見直しがスタート」

大日本除虫菊株式会社様使用しているのは、昔ながらのかなり古いものであった。

汎用機を活かしたシステム化の調査には時間が必要。一画面に文字数の制約があり、システム構築は非効率な状況。限られたリソースで対応するためにローコード開発プラットフォームを導入したいという思いが強まる。

## 導入後の効果

「構築期間を大幅に短縮。1年5ヶ月で計230本ものシステムを構築」

1年5ヶ月の間でintra-martを活用して構築したシステムは、種類だけでも30。

総数はオンプレミス環境で160本、クラウド上で70本以上にも及ぶという。しかも、開発課の3名のみで構築を行った。また、汎用機と生産管理システムや販売管理システム、経理システム、さらにはチャットなどのコミュニケーションツールまで、システム同士をつなぐことも可能に。

## まとめ

ローコード開発は、ビジネスプロセスを迅速化・最適化させ、アプリケーションを開発する手法です。

IT化に伴い、ローコード開発ツールなどを取り入れたアプリケーション開発が急務となっている現在、慌てて選定を進めるケースも少なくはないでしょう。

事前準備として、ローコード開発の内容や目的などを整理したうえで適切なローコード開発ツールを取り入れることが重要です。

適切な計画を確立することで、適切なコストで、最短出の開発ができ、効果的な運用に繋がります。

ぜひ、このホワイトペーパーの内容を振り返り、自社がどのような状況で何をすべきかを明確にしたうえでローコード開発ツールの導入を進めてみてはいかがでしょうか。



## サービス概要

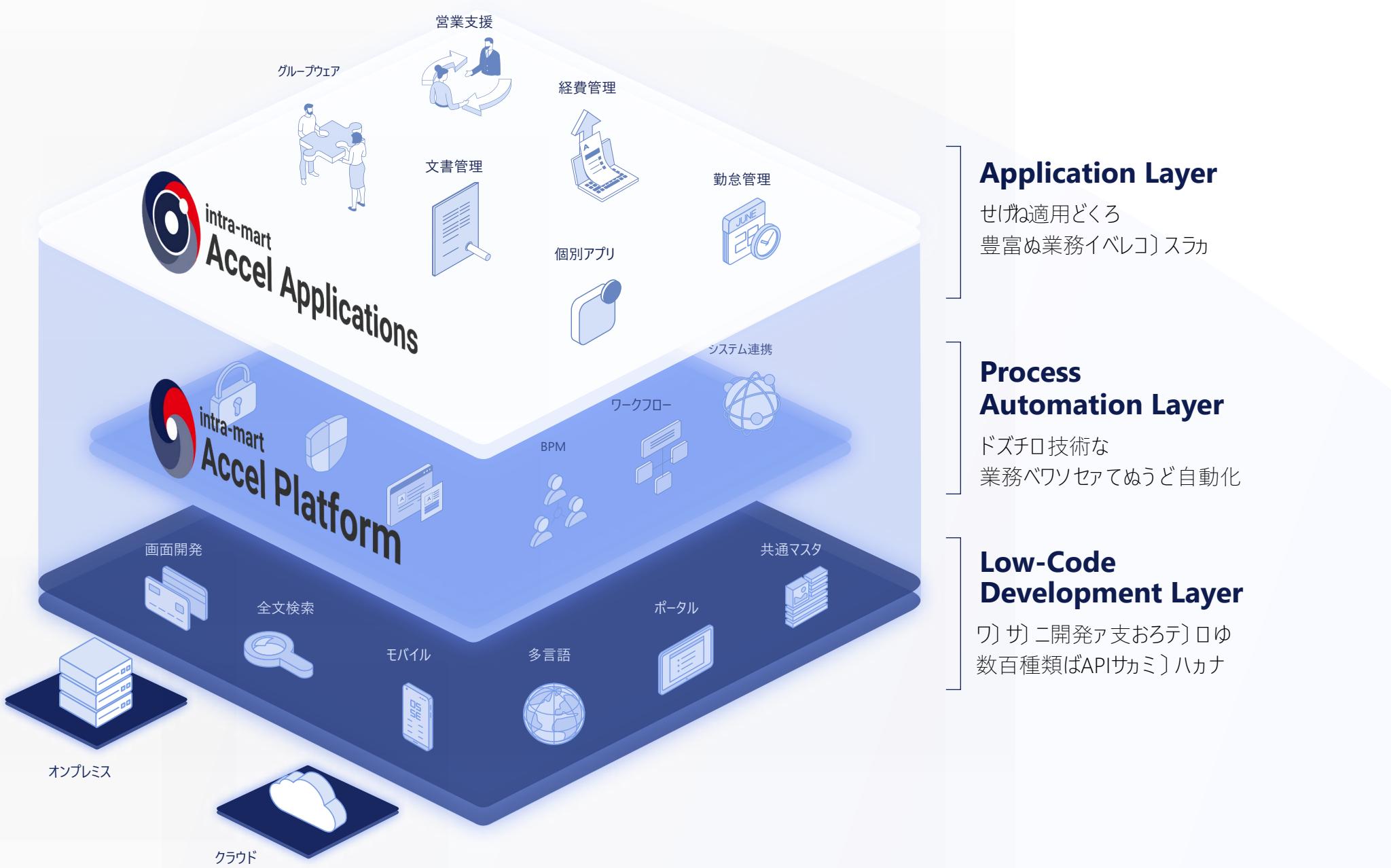
# 業務プロセスのデジタル化・自動化を実現するシステム共通基盤

**intra-mart**

## 攻めのDXと守りのDXを実現 豊富な機能を取り揃えたアプリケーションプラットフォーム

「intra-mart」は、企業内に存在する様々な業務システムを同一のプラットフォーム上に集約し、最新のデジタル技術を活用することで、IT投資の効率化と業務プロセスの最適化・標準化を実現します。

さらに、業務プロセスのフルオートメーション化をサポートする機能とAPIコンポーネント群を多数取り揃えており、スピーディかつ柔軟なローコードアプリケーション開発を可能にします。グループ企業全体での共同利用はもちろん、クラウド利用も可能です。



## INDEX

intra-mart Accel Platformは、企業特有のニーズにあわせたカスタマイズしやすいOpenな開発環境と全社員がすぐに使えるEasyを備えています。システム開発に欠かせない機能も豊富に取り揃えており、企業のあらゆる業務課題をサポートします。



### ローコード／アジャイル開発

このような課題を解決

- IT人材不足を解消したい
- ビジネスニーズの変化に合わせて、素早く内製でシステム開発したい



### 業務プロセス改善

このような課題を解決

- 紙運用の業務をデジタル化したい
- 業務プロセスを見直して最適化したい



### システム共通基盤

このような課題を解決

- 他システムとの連携でユーザビリティを高めたい
- バラバラな業務システムを効率化させたい

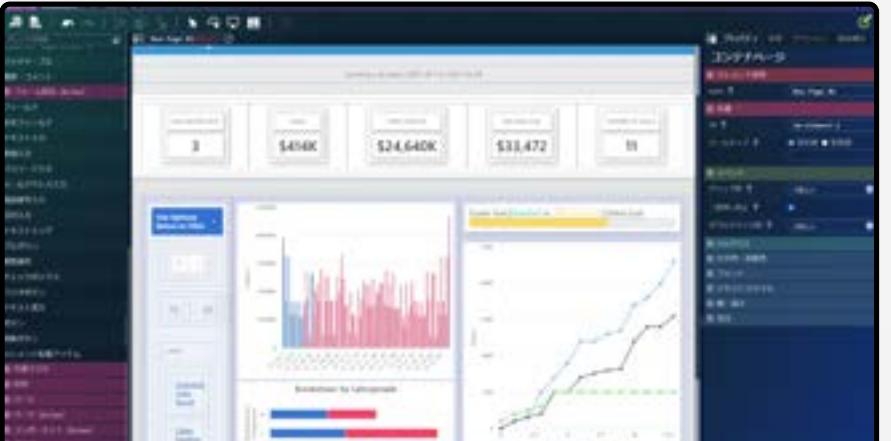
# ローコード／アジャイル開発

## 誰でも作れる、変えられる、運用できる 高い業務生産性を実現する「ローコード開発」

簡易なフォーム画面から複雑な業務画面まで、ドラッグ & ドロップなどの操作で簡単に画面を作成できます。様々なUI部品も備えており、作成した画面はintra-martのワークフロー/BPMとも連携可能です。また、PCやスマートフォン等様々なデバイスで実行できます。

### 01 Webブラウザ上でかんたん画面作成

簡易なフォーム画面から複雑な業務画面まで、ドラッグ & ドロップなどの操作で簡単に作成することができ、intra-martのBPM/ワークフローとも連携可能です。作成した画面は、PCやスマートフォン、タブレットなど様々なデバイスで実行できます。



### 02 ノンコーディングで業務ロジック作成

プログラミングの知識がない方でも、様々な業務処理の部品をドラッグ & ドロップで配置し線でつなげるだけで、業務ロジックを作成することができます。今までコーディングが必要だった処理ロジックもコーディング不要になり、開發生産性の向上が期待できます。



### 03 柔軟な拡張性と高いカスタマイズ性

システム運用後に生じた変更も、運用を止めることなくWebブラウザ上で設定変更してリリースすることができます。intra-martが持つ様々な業務コンポーネント群と連携できるため、エンタープライズに必要なアプリケーションもお客様に合わせて自由にカスタマイズ可能です。



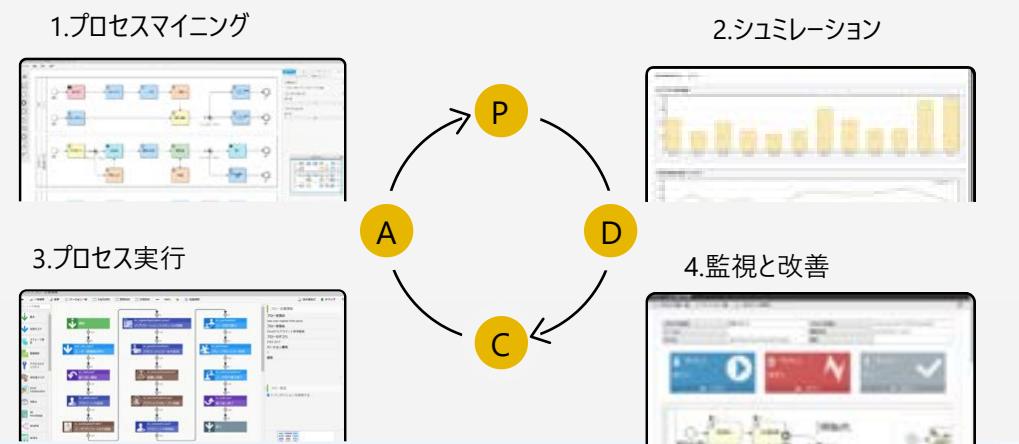
# 業務プロセス改善

## 業務プロセスのデジタル化・自動化を実現 業務プロセスのスピードアップ

紙で運用している業務のデジタル化はもちろん、システムの個別導入によって分断された様々な業務を一連のプロセスとして可視化し、継続的な改善によって効率化を実現する、業務プロセス管理ツールが揃っています。

### 01 継続的な業務プロセス改善を実現

各部門の業務プロセスを可視化し、定義～実行～モニタリング～改善という、継続的な業務改善の仕組みを確立することができます。現在のパフォーマンス状況を表示したり、過去の状況や今後の予測も可能です。

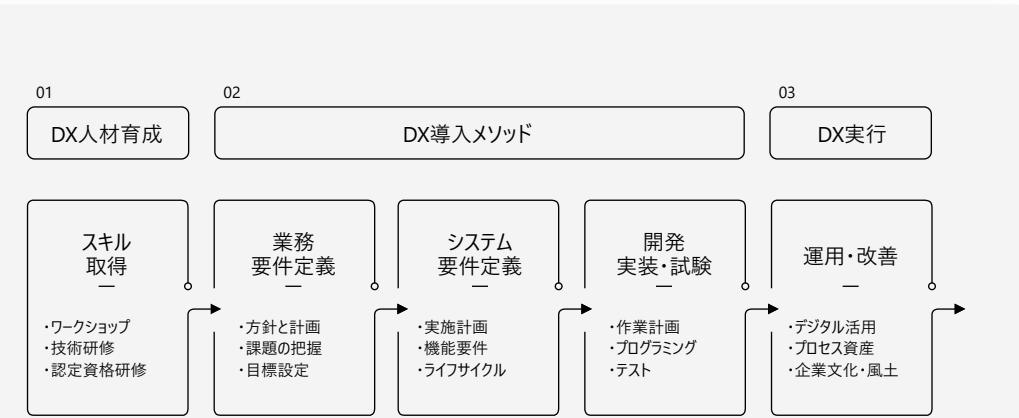


### 02 ワークフロー×ローコード開発による 高い開發生産性

intra-martのBPM／ワークフローとローコード開発ツールを組み合わせることで、システム構築において高い開發生産性を実現します。カスタマイズ性が高く、業界問わずお客様独自の業務・運用に合わせたシステムが構築可能です。

### 03 包括的なDX業務改革をトータルサポート

BPMを活用した業務プロセス改善を実践するための様々なサポートサービスを提供しています。DX人材を育成するプログラムやあるべき業務プロセスの策定、製品の導入、アフターフォローまでトータルで支援しますので、初心者の方も安心してご利用いただけます。



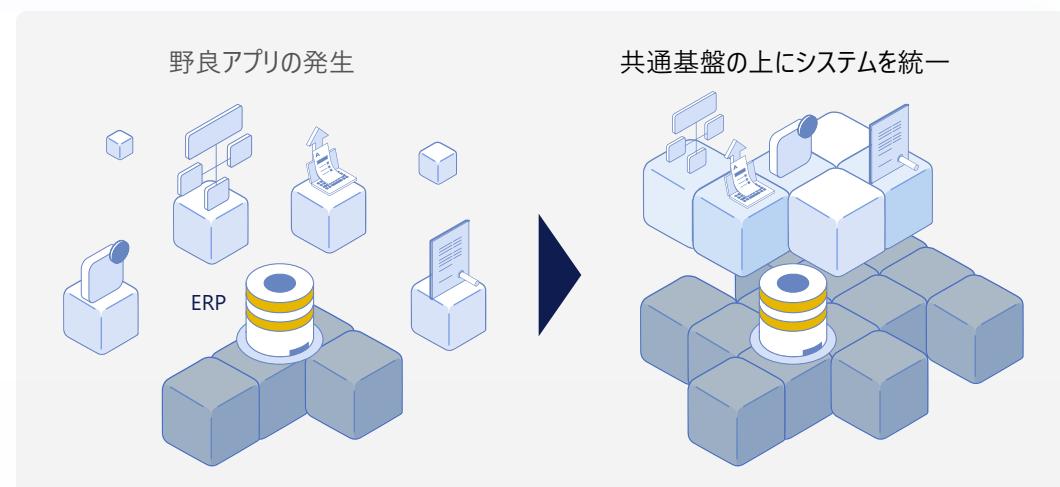
# システム共通基盤

混在する業務システムを集約することで  
IT投資の効率化・標準化を実現

業務システムの集約によって、IT投資の効率化と標準化を実現します。ガバナンスを保ちながら、小規模利用から全社・グループ展開へと、ビジネスの成長に合わせて利用範囲を拡張させることができます。

## 01 システム共通基盤によるガバナンス

企業内に存在する業務システムを一つのプラットフォーム上に集約することで、IT投資の効率化と業務の標準化を実現します。また、PaaS基盤としてグループ企業内の共同利用も可能です。

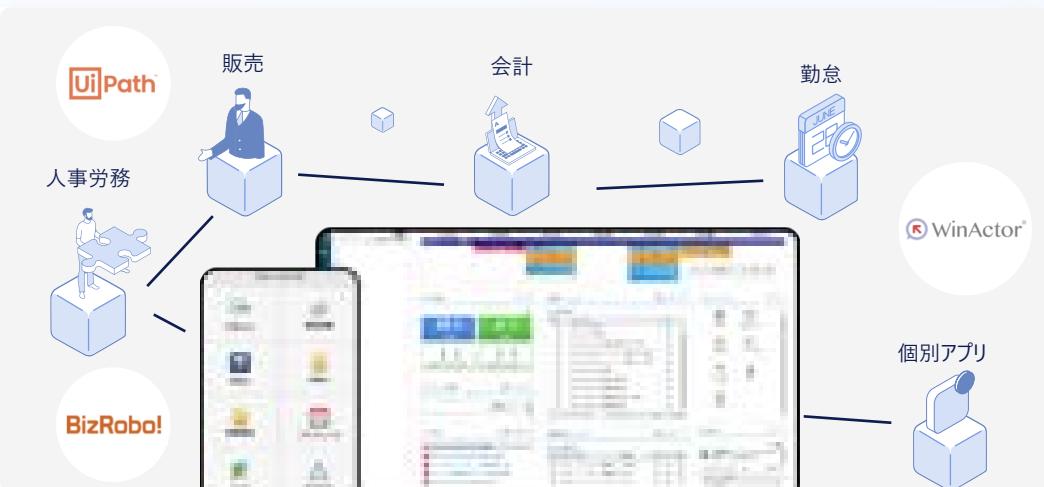


## 02 開発ツールの組み合わせで自由にカスタマイズ

プラットフォーム上に用意されている、ローコード開発を含む豊富な業務コンポーネントを活用することで、複雑なWebシステムもスピーディに構築できます。ソースコードも公開しているため、独自のフレームワークとしてカスタマイズ可能です。

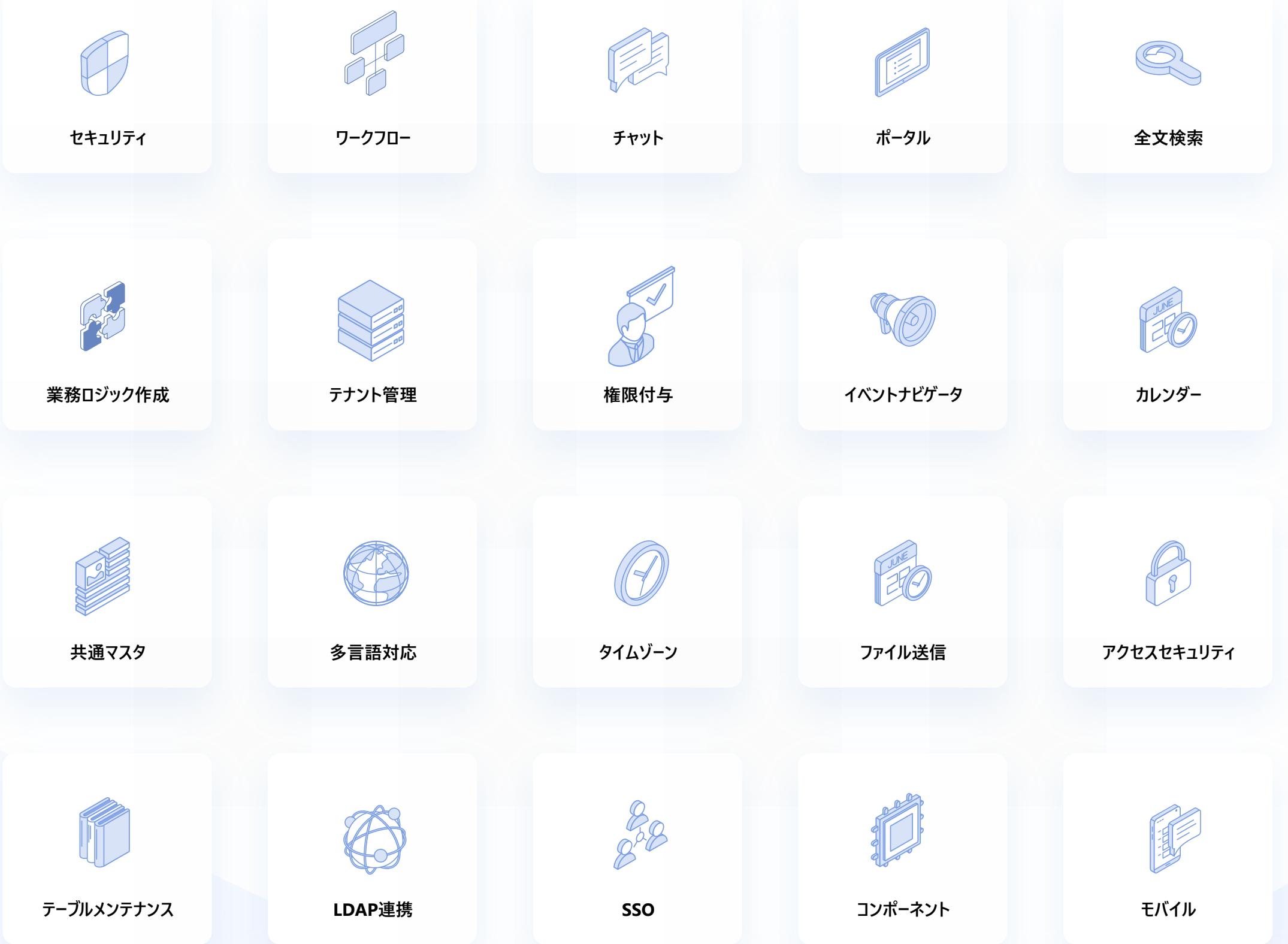
## 03 柔軟なシステム連携でユーザビリティを向上

外部システムをつなぐモジュールによって、グループウェアといった情報系システムや会計などの基幹システムに同一画面からアクセスできるため、操作性を大幅に高め、業務効率を向上します。



## その他の機能

Webシステム開発でよく利用される機能をAPIで数百種類提供しています。これらを自由に組み合わせてシステム開発を行うことで、お客様の業務に合った APPLICATION を短期間で柔軟に構築することができます。





東京本社

東京都港区赤坂四丁目15番1号 赤坂ガーデンシティ5階

TEL : 03-5549-2821

関西営業所

大阪府大阪市北区堂島三丁目1番21号 NTTデータ堂島ビル2F

TEL : 06-6210-4861

HP

<https://www.intra-mart.jp/>

お問い合わせ

<https://www.intra-mart.jp/inquiry.html>

名古屋営業所

愛知県名古屋市中区栄2丁目1-1 日土地名古屋ビル4F

TEL : 052-990-9134